

短期大学部 救急救命学科 企画 2020年度救急救命学科海外実習に係る事前視察の実施について

報告者：若 松 淳¹⁾

1. はじめに

近年では、急速に高度化しグローバル化する医療に対応するために、実践力のある医療人として国際的視野や思考力を身に付け、社会で広く貢献する人材を育成することは、医療教育全般の大きな課題である。本学では、救急救命士の資格取得を目指す学生が、救急医療の最先進地であるアメリカ合衆国の救急資格取得教育施設や消防署、医療施設を見学し見聞を広めるために2020年度より海外実習を実施する。

今回は、国内でもいち早く救急救命士教育学科に海外における実習を取り入れ、大学院生においてはシアトルでの救急車同乗実習を実現した実績を持つ、国士舘大学体育学部スポーツ医科学科の「救助処置実習E（海外実習）」に同行し、渡航日程、実習内容、実習受け入れ先機関、消防署、UCLA大学Paramedic養成校などを確認するために事前視察をおこなったので報告する。

2. 概要

日 時	2019年8月26日(月)～8月31日(土) 4泊6日
実習場所	アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルス郡内
実習内容	1) ロサンゼルス州消防の施設見学 2) UCLA Center for Prehospital Careの見学及び講義・実習の受講
宿泊場所	ベスト・ウェスタン・ハリウッド・プラザ・イン Best Western Hollywood Plaza Inn 住所 2011 North Highland Ave. Hollywood, Los Angeles, CA 90068-3238 TEL +1 120-563-200

参加人員 学生 男13（国士舘11 明治2） 女12（国士舘10 明治2）合計25名
教員 男6 女1 合計7名
引率指導 田中 秀治、田久 浩志、大村 圭祐（国士舘大学）
植田 広樹、柳 聖美（明治国際医療大学）
若松 淳、齋藤 駿祐（弘前医療福祉大学短期大学部）

3. アメリカにおける救急隊員（Paramedic）の体制

アメリカにおける救急隊員、とりわけParamedicの制度は、1960年代後半からはじまり約50年の歴史がある。他方、比較対象としての日本における救急救命士の法施行は1991年であることから、アメリカとは約20年もの歴史的差が存在する。残念ながら現代においても病院前救護体制も含めて、その差が接近したとは言い難いのが実情である。

本邦との違いは年数のみならず、先ず設立に至る背景もある。増えすぎた交通事故に対応するため、負傷者を事故現場から医療機関まで搬送するために、警察組織から消防団、消防署へと分化するなど、公的機関を主導として始まった本邦の救急隊に対し、アメリカでは当初より救護は消防職員、搬送は民間の葬儀社がおこなっており、1966年に葬儀社からEmergency Medical Technician（以下、EMT）として専門職化し、民間主導で救急医療を開始した経緯がある。

民間主導でおこなわれた病院前救護はおのずと競争原理を育み、より知識に優れ、技術の高い専門職EMTへと進化を遂げ、1966年にシアトルでParamedic制度を生み出すきっかけとなった。また、1970年代にはベトナム戦争から帰還した衛生兵らによって、より専門性と技術の高いParamedic制度がアメリカ全土へと広がりを見せることになる¹⁾。

1) 弘前医療福祉大学短期大学部 救急救命学科（〒036-8104 青森県弘前市扇町2丁目5番地）

救急資格は、EMT-Basic、EMT-Advance、Paramedicと3階層に分けられているが、本邦の救急救命士がEMT-Advanceに相当するのに対し、より高度な医療行為が可能となるParamedicを有していることからその差が歴然であることが窺える。Paramedicが実施可能な医療行為は、本邦の救急救命士に認められている医療行為のほか、救急現場での超音波エコー検査、緊張性気胸に対する胸腔穿刺、乳児など静脈路確保困難傷病者への骨髄穿刺、甲状腺輪状間膜靭帯切開、薬剤投与（30～50種類）などがある^{1), 2)}。

4. ロサンゼルスにおけるEMT

ロサンゼルスはアメリカ合衆国カリフォルニア州にあり、同州最大の都市で、国内ではニューヨークに次いで第2位の人口を誇る³⁾。Paramedicの育成は1973年から始まっているが、現在の教育主体は、①消防署が管轄するAcademyと、②世界的な高等教育評価機関であるTHE（Times Higher Education）大学ランキングで常に上位に位置する（日本では東京大学の36位が最高）、UCLA（University of California Los Angeles）大学付属Daniel Freeman Paramedic Schoolに代表される民間の養成校の2つである¹⁾。



UCLA大学付属 Daniel Freeman Paramedic School

市内中心部を管轄するロサンゼルス市（City FD）消防と、地方を管轄するロサンゼルス郡（County FD）消防とによってParamedicのおこなう処置内容や搬送形態も明確に区別されている。例えば、市消防は管内の豊富な医療資源により搬送業務までをおこなうが、郡消防は現場処置のみに徹しており、救急搬送は民間の救急車に委託している。これにより、郡消防のParamedicはより遠方かつ、多くの災害・救急現場への出動が可能になる。また、郡消防には本邦では防災航空隊にあたるAir Operationや、世界最大の広大な海岸リゾートを管轄する海上消防Marina del Reyが所属している。



Air Operation



海上消防 Marina del Rey

5. 実習日程

実習日程については、以下のとおりである。

日付	時間	内容
8月26日(月)	15:30	成田空港第二ビル駅3階指定カウンター集合
	18:40	AA170便にて出発
8月26日(月)	13:10	ロサンゼルス到着
	14:00-16:00	マリーナデルレイ消防署視察
	18:00-19:30	サンタモニカ経由でハリウッドへ（メトロバス利用） ベストウエスタンハリウッドプラザイン （到着後 ホテルで打ち合わせ）
8月27日(火)	9:00	ホテル出発
	9:30-11:30	ロサンゼルス市消防署視察（ハリウッド） ※災害出動のため予定変更
	11:45-12:45	ロサンゼルス・オリンピックスタジアム視察 各自昼食

8月27日(火)	13:00-17:00 18:30	UCLA Center for Prehospital Care 外傷primaryコース・ACLS・外傷処置受講 ホテルで消防署訪問の打ち合わせ
8月28日(水)	8:00 9:00-11:00 11:30-13:00 13:30-14:30 15:00-16:30 19:00- 23:00	ホテル出発 FD Air Operation 視察 (災害救助ヘリ) アウトレットにて各自昼食 Dispatch Center 視察 (統合指令センター) 大規模商業施設にて救護体制見学 (Citadel Outlet East Los Angeles) 大規模スポーツ施設にて救護体制見学 エンゼル・スタジアム・オブ・アナハイム (MLB ANGELS vs RANGERS) ホテルで消防署訪問の打ち合わせ
8月29日(木)	午前・午後 22:00	A班ビバリーヒルズ B班サンタモニカ C班ハリウッド 各地区の消防署訪問 訪問後は自由行動 ホテルで打ち合わせ
8月30日(金)	7:00 8:30 12:45	起床 ホテルロビー集合 ホテル出発 ロサンゼルス出発 帰国 AA169便
8月31日(土)	15:55	成田空港着 解散

の夜には、大型商業施設の救護体制としてアメリカ大リーグ大谷翔平選手の試合を観戦するなど、随所に学生への配慮が垣間見え、本学の実習を実施する際にも大いに参考とするべきであると感心した。

参加した学生は能動的で学習意欲が高く、消防署訪問など事前に自ら計画を立案し、各班ともに教員ではなく学生が主体性を発揮して実習を遂行しており、その姿勢は見習うべきものがあった。



City 消防の救急車

また、特に陽気で会話好きなアメリカでは、通訳に頼ることなく質問し、積極的に会話することにより、実習先のParamedicから新たな情報や知識を引き出すことが可能となるため、最低限の英会話力やリスニング力は必要である。さらに実習先では学生同士での行動が多いため、社会性や高いコミュニケーション能力が求められる。

7. まとめ

救急医療において、速やかな対応と適切な病院前救護体制の構築は最も重要であり、アメリカのParamedic方式とフランスのSAMU方式 (Service d'Aide Médicale Urgence ドクターカー方式の公的救急医療サービス) がその代表であることに疑いの余地はない。日本は紆余曲折を経てアメリカにおけるParamedic方式を目指し、現在の救急救命士が誕生したという歴史的事実からしても、救急救命士を志す学生がアメリカを代表するロサンゼルスで実習をおこなうことは非常に有意義である。また、病院前救護のみならず国際情勢や社会経済分野においても、アメリカを知らずしてグローバルな見地を得ることは無いであろう。

6. 成果と課題

実習は、ロサンゼルス到着時より計画的に進行された。また、受け入れ側の消防・大学機関との関係も良好で充実しており、先進的な病院前救護体制を実感する非常に有意義なものであった。特に世界でもトップレベルに位置するUCLA大学付属Daniel Freeman Paramedic Schoolでの実習は、救急救命士を志す学生の未来にとって、かけがえない経験になるであろう。

また、タイトな日程の中にもサンタモニカ海岸、チャイニーズシアター、ロサンゼルス・オリンピックスタジアムなどの観光名所訪問や、昼食時に日本では見られない郊外の大型アウトレットモールを利用したり、三泊目

最後に、このような貴重な機会を無駄にしないためにも、参加希望学生に対する事前のレクチャーと面談による適正審査、語学力の確認と教育が必須であると共に、教員自らが専門性のある語学力の習得が必要であることを申し添える。



サンタモニカの夕焼け

文献

- 1) 田中秀治：資料1 ロサンゼルスにおけるパラメディックの教育体制について. 平成21年度厚生労働科学研究補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「救急医療体制の推進に関する研究」. 「救急救命士による救急救命処置に関する研究」報告書(案). 53-59. 2009.
- 2) 上嶋権兵衛：パラメディックの役割と問題点. 日本救急医学会誌. 6(1): 1-15. 1995.
- 3) 日本貿易振興機構(JETRO): Los Angeles Style. 6-9. https://www.jetro.go.jp/ext_images/jfile/report/07001646/7.pdf (最終閲覧日: 2019/12/20.)